

## 庄原市地域福祉計画

# しあわせづくり活動計画を策定

# 身近な場所で市民のしあわせを創ろう

市は平成21年3月、社会福祉法に基づき「庄原市地域福祉計画」を策定しました。

多くの行政計画は、市が素案を示して市民の皆さんの意見を聞き、目的達成などの方策などについて記述していますが、この地域福祉計画は、市民の参画を前提とした「策定までの過程」が重視されるという特徴があります。

そのため、行政や関係団体の職員に加え、100人を超える公募の市民の皆さんで「ほっと里山委員会」を結成。1年半余りをかけて「福祉」の意味や「求められるまちのイメージ」、地域福祉を実現するための「優先課題」などについて、委員会や地域座談会で意見交換を行うとともに、プロジェクトの企画や具体的な活動などに取り組み、その経過をまとめて計画書としています。

また、一般的に「与えるもの・提供されるもの」と解釈される「福祉」の意味をもっと広い視点で「しあわせ」と捉え、地域福祉を「身近な場所での市民のしあわせ」と定義。計画の名称を「しあわせづくり活動計画」と名付けました。

今後、ほっと里山委員会を中心に、しあわせづくり活動を展開していきます。



リーディングプロジェクトで市民が気軽に集える「たまり場」を設置。庄原実業高校の生徒も運営に参加。多くの方が訪れ、会話や食事を楽しんだ。

社会福祉課障害者福祉係 ☎0824-73-1210

私たちの地域福祉計画  
こんな「まち」になったらいいね

●子どもたちの夢と笑顔があふれるまちだったらいいいね！

●一人一人がドキドキワクワク活躍できるまちだったらいいいね！

●活気にあふれ、ずっと地域で住み続けられるまちだったらいいいね！

●庄原の美しい生命(いのち)を守り、伝えていくまちだったらいいいね！

●幸せあふれる居場所がたくさんあるまちだったらいいいね！

●みんなが家族のように暮らせるまちだったらいいいね！

●やすらぎにつつまれた毎日が送れるまちだったらいいいね！

●一人一人の幸せが実現できるまちだったらいいいね！



“ほっと”里山委員会に参加した皆さん

山根 地域福祉の「福祉」は「しあわせ」を意味して

最後に市民の皆さんへ  
 一人では何もできません。誰もがしあわせに暮らせる地域づくりを、みんなで考え、みんなで実行できる委員会であり続けたいと思います。

山根 地域福祉の「福祉」は「しあわせ」を意味して  
 一人では何もできません。誰もがしあわせに暮らせる地域づくりを、みんなで考え、みんなで実行できる委員会であり続けたいと思います。



ワークショップで思いを共有

しあわせづくり活動  
仲間を募集中!

地域福祉(身近な場所での市民のしあわせ)を実現するためには、市民の皆さんの参加と力が必要です。今後、“ほっと”里山委員会を再結成するとともに、支所単位の活動組織として「地域里山倶楽部」を結成することとし、随時、仲間を募集しています。

市民の皆さんの意欲や情熱を呼び覚ましていただき、「何か活躍できることはないか」、「地域でこんなことをしたい」など、興味や関心をお持ちの方は、下記事務局までお問い合わせ・申し込みください。

庄原市中本町一丁目10-1庄原市役所社会福祉課内 “ほっと”里山委員会事務局 ☎0824-73-1210  
 ※庄原市地域福祉計画は、市ホームページでご覧いただけます。  
 また、“ほっと”里山委員会(地域里山倶楽部を含む)への参加申込書もダウンロードできます。

—今後の“ほっと”里山委員会は—  
 岡田 “ほっと”里山委員会は、自分たちがしあわせに暮らしていくために必要なことを、自らが実践していく場として活動を続けていきたいと思えます。地域にしばらく新しいコミュニティの形です。この2年間では、

市民レベルでの新しい活動の起こし方を学びました。これからは各支所単位の「地域里山倶楽部」が置かれ、暮らしに密着したところで、その地域ならではの活動を展開していくことにしています。ほっと”里山委員会は、個人資格で参加します。いつも「私」個人として地域づくりへの思いや、今やりたいこと、大切にしたいことを出し合い、それに賛同してくれる人がいれば、いつでも活動を起こすことができます。誰にも気兼ねなく自由に主体的に活動できる「場」だと思います。

—地域福祉計画をつくられました—  
 山根 委員会では、頭を突き合わせ

実行されない事業もたくさんあると思います。計画書という成果品をつくる作業よりも、計画を策定する過程で、みんなで考え、思いを共有し、一緒にやってみようという仲間づくりが大切だと感じていました。この2年間の取り組みの中で、参加者同士がいろんな思いを共有し、地域への思いや愛着が深まりました。また、これからの地域づくりをどうすればよいか考え、どうすればみんなで動いて行けるのかを感じる、体験の場であったと思います。



岡田誠一郎さん(西城)

## “ほっと”里山のススメ



山根寛子さん(西城)

地域福祉計画をつくる目的でスタートした“ほっと”里山委員会。平成19年度は6回のワークショップと市内14カ所各2回の地域座談会を実施し、「福祉とは何か」「しあわせとは何か」などを話し合いながら「こんなまち」になったらいいね」という夢を描きました。

平成20年度には、自分たちが描いた夢を実現するために、「やってみたいこと」をまとめ、6つのプロジェクトに挑戦しました。

—地域福祉を推進するためには—  
 岡田 市内全域に“ほっと”里山委員会のような、しがらみのない思いを出し合える場がもっとも必要だと思えます。主体的に動く人が増え、いろんなところで「あれやろう」という話し合いの場ができると、物事を動かす仕組みが変わっていくのではな

あるべき「まち」の姿に夢に向かってこんな活動をしよう  
 (優先課題)

【市民視点での優先課題】

- ① 誰もが気軽に集える福祉の拠点をつくらう!
- ② 一人一人に役割や出番がある地域づくりをすすめるよう!
- ③ いろんな思いを話し合える仲間づくりをしよう!
- ④ 福祉に対する意識改革をすすめるよう!
- ⑤ 小地域にみんなが気軽に集まれる場や機会を増やそう!
- ⑥ 地域の自慢を探し・創り・広め・好きになろう!
- ⑦ みんなが生きがいや楽しさを感じる農林業を実現しよう!